

富岡、浪江の風景を
忘れない遅くても
復興を前に進めたい

あかいし ざわ のりお 赤石 沢 則男

環境省 福島地方環境事務所 中間貯蔵部 中間貯蔵技術企画官

昭和 37 年（1962）、飯館村生まれ。
1984 年、旧建設省に入省。2014 年度より 2 年間、環境省の廃棄物関連業務を
サポート。2017 年度に環境省に 2 度目の出向。福島地方環境事務所にて
中間貯蔵施設の設計審査、再生利用事業の実証などを担当。

震災後、実家のある飯館村は原発事故で全村が避難対象に。
両親は避難した南相馬で生活を送ることになりました。もともとは農家で
葉タバコやトマトなどを作っており、老後はゆっくり過ごしたかっただろうと、
悔しい思いはぬぐえませんでした。月に 1 度は様子を見るため両親のもとへ
帰省していました。3 年前に飯館村の居住制限区域の避難指示が解除になり、
ようやく元の実家に戻ることができたので安心しました。

私は震災後も国交省に勤務し、2014 年度より 2 年間は環境省の廃棄物関連の仕事を
手伝う機会をいただき、福島状況を間近に見ることができました。

その頃から、より故郷への思いが募り「国交省時代の 30 年間の経験をここで
生かさずにはられない」と思っていたところに、運よく環境省出向の辞令拝命。

現在は、中間貯蔵施設の設計審査や飯館村長泥地区の再生利用事業の
実証事業などを担当し、福島復興のお手伝いをさせてもらっています。

私は後ろに戻るの嫌いです。震災後に初めて見た富岡や浪江の風景を
決して忘れることなく、遅くとも歩みを前に進めていきたいです。

まもなく定年を迎えますが、退職後に何をすることも自分にとっての
大事な課題だと思っています。



2020 年 10 月 16 日、飯館村長泥地区環境再生事業運営協議会の
現地視察。概要を説明する赤石さん（右）